



ミシンはだれがいつつくったの

イギリスのワイゼンソール

1755年、イギリスのワイゼンソールが、初めてミシンを發明しました。しかし、実用化されませんでした。

実用化された最初のミシンは、19世紀の始め、フランスの仕立て屋、ティモニエによって作られました。このミシンは、1本のかぎ針を使ったミシンで、軍服をぬうのに81台生産されました。しかし、このミシンを使うことにより、職を失うことをおそれた、仕立て屋によって、ミシンはこわされてしまいました。

その後、いろいろなミシンが、考えられましたが、1851年に、アメリカのシンガーは、多くの改良を加えた、実用的なミシンを完成しました。このミシンが、今日のミシンのもとになっています。

20世紀になると、ミシンの研究開発が進み、直線ぬいのミシンだけでなく、針を左右にふりながらぬっていく、ジグザグミシンが考え出されました。

左口鉄造が勸業博覧会に出品した

日本での最初のミシンは、1854年、ペリーの2度目の来日のときに、将軍家定の夫人に、おくれたものです。

1881年に、東京で開かれた第2回勸業博覧会に、左口鉄造が、国産第1号のミシンを出品しています。

ミシンのことを、英語でソーイング・マシン（ぬう機械）といいます。日本に伝えられたとき、マシン（機械）がなまって、ミシンになりました。（監修・青木 国夫）

